

豊田市郷土資料館
だより

No.84

Toyota City Museum
Of
Local History

目次

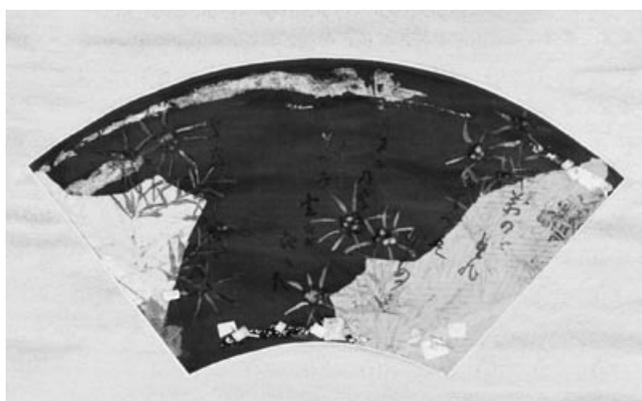
・企画展「館蔵 藤井達吉展～小原和紙工芸を創った男～」	2
・旧山内家住宅と旧平岩家住宅	3
・民具調査だより-11 足助の蔵から―鉄漿 ^{かねつ} 付けの道具	4
・平成24年度 文化財保護事業報告	5
・平成24年度 埋蔵文化財調査の概要	6
・平成24年度 郷土学習スクールサポート事業報告	6
・平成24年度 豊田市近代の産業とくらし発見館事業報告	7
・文化財シリーズ84 市指定文化財 若宮神社のクス	8
・資料館 NEWS	8

企画展 「館蔵 藤井達吉展」

～小原和紙工芸を創った男～

藤井達吉は、明治から昭和にかけて活躍した芸術家です。絵画・彫刻・陶芸・漆芸・金工・木竹工・七宝・紙工芸などあらゆる美術工芸分野で活躍し、数多くの優れた作品を残しています。

豊田市は、昭和35年（1960）から41年（1966）の間に、藤井達吉と姉の篠^{すず}から1,000点余の書籍や美術品などの寄贈を受けました。これらの資料は当初、市立図書館にて保管されていましたが、昭和42年（1967）の郷土資料館開館を機に書籍を除く美術、工芸資料が郷土資料館に移管され、今日に至っています。



継色紙（継紙）扇面図

藤井達吉は明治14年（1881）、綿や綿糸をあつかう商人であった藤井忠三郎の三男として、愛知県碧海郡棚尾村（現碧南市源氏町）に生まれました。尋常小学校を卒業後、木綿問屋に奉公に出て、砂金を金塊へ铸造する仕事などに従事しました。5年ほどして木綿問屋を辞め、美術学校への進学を希望しますが許されず、名古屋の七宝店に入社します。ここではアメリカで行われたセントルイス万国博への七宝作品出品と、オークション開催のために渡米する機会に恵まれ、東西の美術品に接する機会を得ました。明治38年（1905）に帰国後、七宝店を辞めて上京し、美術工芸の道を歩み始めることとなります。

達吉は師を求めることはせず、独学で絵画をはじめとする美術工芸全般を研究し、さまざまな分野で作品を生み出していきました。常識にとられない斬新で独創的な作風は、美術工芸界で注目されることとなり、

各種の美術団体に参加して多くの芸術家と交流をもちました。

大正から昭和にかけては、家庭工芸（手芸等）の普及や工芸の地位向上のために幅広い活動を行いました。さらに大正7年（1918）には、官展に工芸部門を加えるための運動も友人らと起こしており、昭和2年（1927）の帝展工芸部誕生の推進力となりました。

しかし、昭和に入った頃から中央の美術界から次第に離れていき、昭和6年（1931）には一切の美術団体を退き、全国各地に残る伝統工芸の調査と復活をめざして旅に出ました。その過程で出会ったのが小原和紙でした。昭和7年（1932）のことです。達吉が図案集出版のための紙を求めたことがきっかけでした。そして、昭和20年（1945）、太平洋戦争の戦況が悪化すると居を構えていた神奈川県真鶴^{まなづる}から小原へ疎開し、同25年（1950）まで小原に留まり、工芸紙の指導を行いました。その後、昭和39年（1964）に83歳で逝去するまで、小原和紙工芸を含めた各地の伝統工芸の育成・発展に力を注ぎました。

藤井達吉が創作した作品の多くは、「自然」をモチーフとしています。美術学校に通うことができず独学で芸術の道を歩んだ達吉にとって、身近な「自然」は美を教えてくれるとても重要なものだったのではないのでしょうか。その「自然」のなかでも、梅や松は達吉好みであったようで、多くの作品に描かれています。

今回は、その梅や松をテーマにした作品を含め、寄贈された資料の中から達吉本人が作成した作品をとり上げて展示します。この機会に、藤井達吉の世界に触れ、その魅力を存分に味わっていただければ幸いです。

企画展「館蔵 藤井達吉展～小原和紙工芸を創った男～」

会 期：平成25年7月20日（土）～9月1日（日）

開館時間：9時～17時

会 場：豊田市郷土資料館 第二展示室

休 館 日：月曜

観 覧 料：無料

旧山内家住宅と 旧平岩家住宅

豊田市藤岡飯野町の豊田市藤岡民俗資料館の近くに茅葺き屋根の古民家が、ひっそりと佇んでいます。これは旧山内家住宅と呼ばれ、当時の藤岡村が豊田市木瀬町にあった建物を譲り受け、歴史文化を伝える資料として昭和46年（1971）に移築したものです。農家の原初として、また庶民層の住宅を知ることができる貴重な財産として、昭和50年（1975）に愛知県の文化財に指定されました。その後、茅葺き屋根の傷みや、柱などに蟻害が見られたことから保存修理を実施し、このたび無事完成しました。

旧山内家住宅は1730年ごろの建造と伝えられており、柱などの木材の加工に、手斧てのきりが用いられています。手斧は鋏くわに似た斧おのの一種で、鉋かんなが普及するより前から使われていました。手斧で加工した柱には表面に独特の凹凸が見られ、古い民家に見られる特徴と言えます。旧山内家住宅は、小規模な民家で、その間取りは、農作業を行うニワ（土間）と、生活の場である板の間で構成されています。移築前の建物には、板の間の一角に就寝の場である「ネマ（ナンド）」の仕切りがありましたが、移築の際の詳細調査により取り払われました。現在は、建築当初を想定した単純な間取りに復元されています。

建物の構造は「四つ建て」と呼ばれる構造です。「四つ建て」とは、古くから尾張地方を中心に三河や美濃に広く分布する古い建築方式の農家住宅です。外壁から内側に入った位置に独立して4本柱を建て、それを基にして家を建てます。鳥居状に木材を組み上げる形態から「鳥居建て」とも呼ばれています。この「四つ建て」は近世前半から数多く建てられましたが、近世後半からは次第に少なくなり、現存するものは極めて少数になっています。

なお、豊田市陣中町の豊田市郷土資料館にある旧平

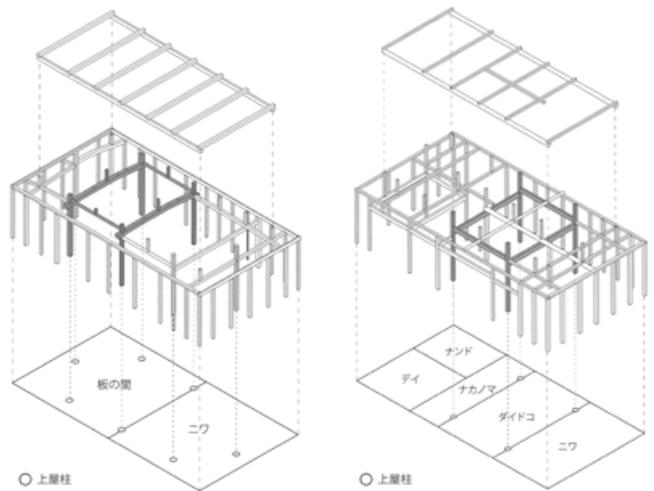


図1 旧山内家住宅（左）と旧平岩家住宅（右）の構造
【『市川家建造物調査報告書』（日進市教育委員会、2012年）に加筆】

岩家住宅（民俗資料館）も、愛知県下では数少ない「四つ建て」の現存する建物です。旧平岩家住宅は、豊松町にあった庄屋の平岩家の建物を移築したもので、江戸時代中期の建物と考えられています。建物は旧山内家住宅より大きく、部屋も分かれています。柱などの材料に自然に曲がったものを用いたり、その加工に手斧を使っていたりと、旧山内家住宅と同様に古い農家の特徴を持っています。

「四つ建て」は、縄文・弥生時代の竪穴式住居に起源を持つという説もあります。2つの古民家を見比べながら、昔の農家の暮らしや住宅の原型を推察してみたいはいかがでしょうか？（松川 智一）

旧山内家住宅（一般公開・要申込、休館日あり）

住所：豊田市藤岡飯野町仲ノ下1048-1

旧平岩家住宅（一般公開、月曜休館）

住所：豊田市陣中町1-21（豊田市郷土資料館内）

問合せ先：豊田市郷土資料館 0565-32-6561



写真1 旧山内家住宅の修理状況



写真2 修理後の旧山内家住宅



写真3 旧平岩家住宅の外観

足助の蔵から一鉄漿付けの道具

呼称と推移

鉄漿付けとは、お歯黒の別な呼び方であり、他にも「歯黒め」「つけがね」「涅歯」などとも称されていました。また御所では民間とは異なり「五倍子水」と呼ばれていました。

歯を黒くする習俗は化粧のひとつで、古墳時代から行われていた形跡があるようですが、平安以降に貴族社会で盛んになり、女性だけでなく男性もこれを行っていたようです。歯を黒くする方法は3通りあって、

1. 果実や草木を噛んで染める方法
2. タンニンと鉄を材料にして歯に定着させる方法
3. 鑑真が伝えた方法で、通称「香登のお歯黒」

であると言われています。1は古代のお酒を造る方法にある「口醸酒」製法で、果実などを歯で噛み壺に入れて、唾液で発酵させました。これを行った女性の歯は果実の渋で染まり、これが働く女性の美しさの象徴になったと考えられました。“カミサン”の語源でもあるようです。2は鉄の文化が日本に伝来した以降に普及した方法で、タンニンと鉄を反応させ「鉄漿水」を造りました。その製法は、お茶を沸騰させたものや米のとぎ汁あるいは酢の中に、焼いた釘とか鉄くずを入れさらに酒とか麴を入れ、密封して2～3ヶ月暗所で保存すると、茶褐色の甘く、悪臭を放つ液体ができあがる。この液体に、五倍子粉を付けて歯に定着させます。この方法は、色付きが良いので次第に1の方法から変化していったと考えられています。しかし、この鉄漿水造りは大変難しかったようで、その臭い匂いにも苦労したようです。鉄漿水の造り方や付け方には秘伝があり、これを新所帯の若奥さんにくどくど伝授するのが姑の自慢であったようで、『新所帯鉄漿の話聞き飽きる』などという川柳も残っています。3は鑑真和尚が独自の安定した製法を、備前の香登の寺に伝えたもの。鉄漿水の代わりに、硫酸第一鉄（緑バン）を使用し、これに貝の灰（炭酸カルシウム）とタンニン（五倍子粉）の粉末を混ぜ合わせた粉で、これと湿らせた水とを房楊子などで歯の表面に繰り返し塗る方法で、通称「香登のお歯黒」と呼ばれていました。科学的に安定し、変質や悪臭を放さず、歯の表面に付きが良く、歯を痛めず、使い勝手が良いので旅にも携行されました。ただ少々高価であったた

め大奥や遊郭など経済的に豊かなところでもっぱら使われていたようです。庶民の生活が豊かになった元禄時代には広く使われるようになりました。



鉄漿付け道具一式（旧紙屋鈴木家収蔵品）

生まれて初めてのお歯黒『初鉄漿』は七カ所からもらって混ぜて使い、その後は一杯一文で購入したようです。吉原では遊女に買いにやらされた禿がこぼさないようにゆっくりと運ぶ。そんな風を歌った川柳に『一文の鉄漿すり足で禿くる』などとあります。

鉄漿付けの道具

前段が長くなりましたが、足助の旧紙屋鈴木家の蔵に立派な鉄漿付け道具一式が残されていました。抱き沢瀉の紋を付けた漆器と黄銅の道具です。左右に耳状の把手のついた盥が【耳盥】です。耳盥は手を洗ったり、洗い鉄漿水をうがいした水をこれに吐き出すため【鉄漿吐き】とも呼ばれます。耳盥の上に乗せた板状のものが、黄銅製の【渡し金】、渡し金の上に乗せられている右側の物が【鉄漿沸かし】、左が【鉄漿付け碗】、耳盥の手前に二つの【五倍子箱】、その前に置かれた物が【歯木・房楊枝】、左の磁器質の茶碗が【うがい碗】、その左側の箱が、渡し金や鉄漿碗・鉄漿沸かし、五倍子箱を収める【長箱・歯黒箱】。残念な事に、鉄漿水を入れておく【鉄漿壺】だけが見あたりませんでした。

■法量（単位はmm）

- 耳盥—W400 H203 Dφ305
- 渡し金—W363（一尺二寸）t4.1 D69
- 鉄漿沸かし—Wφ77 H100 D95
- 鉄漿付け碗—Wφ73 H55 高台φ40
- 五倍子箱—（大）W85 H79 D85（小）W61 H57 D61
- 房楊枝—（長い方）W18 L260 D20
- うがい茶碗—Wφ150 H67 高台φ49
- 長箱—W115 H136 D418

（東海民具学会 岡本大三郎）

平成24年度 文化財保護事業報告

■ 文化財保護事業

1 文化財保護審議会 3回

諮問2件（龍性院庭園、猿投山のカツラ）
文化財防火デー：足助八幡宮、徳合院、隣松寺、
長慶寺

2 伝統的建造物群保存地区保存審議会 2回

3 埋蔵文化財（6頁参照）

4 文化財指定等

・新規の登録有形文化財：
「如意寺 本堂・書院・山門・鐘楼・太鼓楼」
登録年月日：平成25年3月29日

5 文化財等保存維持・修理補助事業

・有形文化財保存修理2件（遊佐家長屋門ほか）
・有形民俗文化財保存修理4件（高橋町山車ほか）
・天然記念物保存修理5件（杉本町貞観杉ほか）
・有形民俗文化財保存維持15団体（喜多町山車保存会ほか）
・無形民俗文化財保存維持33団体（猿投町棒の手保存会ほか）
・伝統的郷土芸能保存維持21団体（西山万歳ほか）
・伝統的郷土芸能保存修理1団体（挙母神楽）
・郷土の先人顕彰活動5団体（村上忠順顕彰会ほか）

6 史跡・建造物等整備・修理

・旧山内家住宅屋根葺き替え工事
・旧紙屋鈴木家住宅応急修繕・且過寮修理工事
・史跡等看板更新（水汲遺跡はじめ22件）

7 民俗芸能普及推進

・豊田市民俗芸能大会開催 11月3日 稲武郷土
資料館横 出演6団体、観覧者数480人
・とよたの祭事記録（有間町宇内戸の門念仏）

8 その他

・ニホンカモシカ滅失個体処理12件

・企画展「平勝寺二天立像修復記念特別公開」

9/15～10/21 1,850人

・ミニ企画展「郷土資料館のひなまつり」

2/9～3/10 2,906人

・喜楽亭企画展「喜楽亭のひなまつり」

2/23～3/31 1,585人

2 資料調査

・民具資料整理（旧紙屋鈴木家住宅）
・愛知県埋蔵文化財センター移管資料整理

3 資料収集・複製・修復

・「太政官制札複製」「岸田吟香書状巻物」ほか購入
・「子守明神祭礼絵図」修復

4 資料貸出件数

・他館・機関への資料貸出（写真含む）90件

5 講座ほか

「こどもの日によろいを着てみよう」
「まがたま作り」
「史跡めぐり」
「おこしもの作り」
「特別展講演会」
「ギャラリートーク」など 16講座 793人

6 郷土学習スクールサポート（6頁参照）

7 近代の産業とくらし発見館（7頁参照）

8 その他

・足助資料館大河原分館延命化工事
・稲武郷土資料館延命化工事



特別展ギャラリートークの様子

■ 郷土資料館事業

1 展示・入館者数

平成24年度入館者数 17,306人

・特別展「明治の傑人 岸田吟香～日本ではじめてがいっぱい！目録・新聞・和英辞書～」
2/2～3/10 3,628人
・企画展「古い道具と昔のくらし」
7/3～10/21 6,540人

平成24年度 埋蔵文化財調査の概要

○有無の照会

住宅建設・宅地造成・開発の事前調査などに伴って文化財課へ埋蔵文化財の有無が照会されます。近年の照会件数は、平成21年度781件、22年度903件、23年度749件です。平成24年度は710件でした。この中で190件が埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に該当しました。

表1 有無照会一覧（ ）は埋蔵文化財包蔵地に該当した件数

地区	猿投	拳母	高橋	松平	高岡	上郷
件数	116 (24)	226 (50)	134 (67)	7 (2)	74 (4)	36 (9)
地区	藤岡	小原	足助	下山	旭	稲武
件数	45 (19)	2 (0)	32 (7)	12 (1)	10 (2)	16 (5)

○届出

遺跡内での開発には文化財保護法により届出・通知が必要です。平成24年度は民間開発事業70件（前年比+8）、公共事業43件（前年比+23）があり、公共事業による届出が増加しています。このうち確認調査・試掘調査を実施した遺跡の一覧

表2 届出一覧

地区	民間	公共	主な遺跡
猿投	12	6	伊保遺跡・亀首遺跡・花本遺跡
拳母	24	6	瑞穂遺跡・拳母城跡
高橋	17	0	高橋遺跡・寺部遺跡・栃原遺跡
松平	1	0	松平氏遺跡
高岡	0	1	五反田遺跡
上郷	1	0	上野城跡
藤岡	7	2	水汲遺跡・辻貝戸遺跡
小原	0	0	
足助	0	4	陣屋跡遺跡・井ノ口城跡
下山	0	17	神デン遺跡・日面遺跡
旭	1	2	島崎遺跡・宇内戸遺跡
稲武	7	5	宮ノソソデ遺跡・大井平道下遺跡
計	70	43	

掘調査を21件実施しました。表3・4は調査を実施した遺跡の概要です。

表3 本調査を実施した遺跡一覧

遺跡名(所在地)	調査原因	調査面積 (㎡)	主な遺構
五反田遺跡(花園町)	区画整理	1,288	流路
寺部遺跡12ABC区(上野町)	区画整理	8,588	竪穴建物・掘立柱建物・土坑・井戸

表4 確認調査・試掘調査を実施した遺跡一覧

遺跡名(所在地)	調査原因等	調査面積 (㎡)
七州城跡・常盤町遺跡(常盤町)	住宅建設	11.9
井上3号墳(井上町)	範囲確認	20
八草地区分布調査(八草町)	事業用地造成	—
平戸橋地区試掘(平戸橋町)	区画整理	50
藪下遺跡(金谷町)	住宅建設	5
栃原遺跡(東山町)	住宅建設	10
高橋遺跡(市木町)	送電線鉄塔建設	2
七州城跡・常盤町遺跡(常盤町)	住宅建設	7.4
島崎遺跡(島崎町)	住宅建設	6
細田遺跡(深見町)	住宅建設	5.4
亀首遺跡(亀首町)	住宅建設	10
豊田大塚古墳(河合町)	保存整備	50
貞宝遺跡(貞宝町)	事業用地造成	28
金谷城跡(金谷町)	宅地造成	86
青木原2号墳(青木町)	住宅建設	12
七州城跡・常盤町遺跡(常盤町)	住宅建設	13
大原2号墳(大畑町)	宅地造成	8
梅坪遺跡(東梅坪町)	住宅建設	12
井山遺跡(稲武町)	住宅建設	6
衣城跡(金谷町)	範囲確認(測量)	2,796
龍性院庭園(猿投町)	範囲確認	213

平成24年度

郷土学習スクールサポート事業報告

— のべ159の小中学校と連携、のべ11,559人の児童生徒の学習をサポート —

平成24年度も市内の小中学校からの依頼を受け、「資料館・遺跡見学」「出前授業」「教材貸し出し」の3つの学習サポートを展開してきました。

平成22年度から始まった地域学習サポーターによる支援を、平成24年度は全市域に広げ、総計35名のサポーターが登録し、事業に参加しました。

小学校から依頼が多いもののひとつに、3年生の「古い道具と昔の暮らし」の体験学習があります。郷土資料館や発見館、藤



<発見館の見学サポート>

岡民俗資料館で古い道具に囲まれた昔のくらしを体験したり、持ち運びが可能な古い道具を、学校の学習室などに持ち込んで学習したりします。子どもたちは、身近に観察するだけでなく、体験用の古い道具を実際に動かして使い方を学んでいます。

平成25年度からは、郷土資料館や遺跡の見学が困難な小中学校でも体験的な学習ができるように、教材キットを作成し、授業用の貸し出しを増やしていく予定です。



<昔の農具を体験>

平成24年度

豊田市近代の産業とくらし発見館事業報告

平成24年度の豊田市近代の産業とくらし発見館（以下、発見館）は、3回の企画展とものづくり講座・体験や見学会、小中学生の公共施設見学、高年大学との連携講座、中心市街地との連携イベントなど多岐にわたる事業を行い、多くの来館者に満足いただきました。

また、平成25年（2013）4月25日には発見館開館以来の入館者数が10万人に到達しました（詳しくは、「資料館NEWS」参照）。

企画展「待望の水、水路を走る～竣工100周年を迎える近代化遺産・金山揚水～」

明治45年（1912）7月、それまで雑木も育たなかった現在の駒新町金山に待望の水が流れました。それを可能にしたのが現代に遺構を残す「金山揚水」です。金山揚水は、逢妻男川と逢妻女川が合流する地点で川をせきとめ、蒸気機関による揚水機を利用して川から15.5mの高台へ水を汲み上げて、灌漑を可能にしました。その中心となったのは、現在の安城農林高等学校教頭であった内藤乾蔵と現在の安城市赤松町出身の都築重治郎でした。彼らの開墾への思いや情熱が金山の地に水を揚げたのです。

今回の企画展は、地元の方からの情報によって金山揚水の存在が明らかとなり、竣工100周年を記念して展示を行うこととなりました。地元や金山揚水土地改良区と連携しながら準備を進め、蒸気機関や土木構造物等については、中部産業遺産研究会の協力をいただき、発見館・地元・研究者の三者が上手く連携・協力できた企画展となりました。

また、企画展開催後も地元の方たちの手によって金山揚水土地改良区で展示会が計画されたり、金山揚水遺構を保全しようという取り組みが始まっています。今後も発見館・地元・研究者の三者が連携・協力して、未永く文化財が保護・活用されていくような企画展・講座等を開催していきたいと考えています。



上 明治45年（1912）竣工記念写真



右 平成24年（2012）遺構写真

年間入館者数 14,881人

企画展

「発見館まゆまつり2012」（期間：4月24日～7月16日、来館者数3,663人）

「地図に名を遺した人たち」（期間：7月24日～10月21日、来館者数4,918人）

「待望の水、水路を走る」（期間：12月11日～3月10日、来館者数3,752人）

ものづくり講座等

まゆ花のメッセージボード／まきまき生糸のペンたて／鬼瓦作り実演とミニ紋瓦／鑄造キーホルダー／あいの生葉染め／ミニ屏風作り／かわいいまゆ雛

ものづくり体験

春休みものづくり体験「ガラ紡糸のコースターづくり」／企画展ものづくり体験「まゆクリップ」／扇子／夏休みものづくり体験「風鈴・麦わらぼうし・キラキラドーム」／冬休みものづくり体験「万華鏡・えと絵馬・はしごくだり」／ものづくり体験「干支まゆ人形・巳」

見学会

養蚕農家と大野の街並／郷土の偉人をめぐる旅／金山揚水／ぶらコロモ

その他

ふれ愛フェスタ2012／9館合同スタンプラリー／とよたものづくりフェスタ2012／出前講座「干支まゆ人形・巳」in元城小／発見館deかみしばいwith高年大学／企画展ギャラリートーク／春のぶらコロモ～自由散策編／名鉄ハイキング

文化財シリーズ

84

市指定文化財 若宮神社のクス

名鉄豊田市駅を下車し、改札を出て高架線下を北へ進むと、赤い鳥居とその脇の大木が目を引く若宮神社が見えてきます。この大木が今回紹介するクスです。

若宮神社のクスは、昭和41年（1966）5月14日に市の天然記念物に指定されました。高さ20m、幹周り7m、樹齢700年と推定されています。

平成25年（2013）4月現在、市内の天然記念物は、国指定が2件、県指定が10件、市指定が94件の計106件あり、そのほとんどが山間地域の樹木ですが、市街地の中心部にも天然記念物に指定された樹木を見ることができます。

若宮神社は、社伝によると、元弘3年（1333）に楠木正成が千早城（大阪府南河内郡）の落城後にしばらく衣ころもの里に隠れ、南朝の再起をはかった時に、



武運祈願のために建立したと伝えられています。天照大神、神功皇后、応神天皇、竹内宿弥が祀られています。現在の社殿は慶長5年（1600）の再建といわれており、クスはこの若宮神社の歴史を見守ってきた生き証人といえるでしょう。

資料館NEWS

発見館入館者数10万人記念！！

平成25年（2013）4月25日（木）、豊田市近代の産業とくらし発見館（以下、発見館）の入館者数が開館以来10万人に到達しました。当日は、拳母小学校4年生の社会見学が予定され、見学前に記念セレモニーを開催しました。記念セレモニーでは、教育長のあいさつ・くす玉割・記念品贈呈・インタビューが行われ、見学者とともに10万人達成を祝いました。また、平成24年（2012）10月27日～平成25年（2013）3月3日まで開催した「目指せ10万人！みんなで記念タペストリーを織ってみよう」で201人の参加者に織っていただいた記念タペストリーも当日、展示させていただきました。

発見館は平成17年（2005）11月1日の開館以来、養蚕業やガラ紡、用水の開削など豊田市の近代（明治～昭和34年頃）産業や人々のくらし、町の変遷などを扱った企画展を合計23回開催してきました。同時に、まゆ

花作り、鑄造キーホルダー、線香作りなどのものづくり講座やとよた発見講座、ぶらコロモなどの見学会を154回開催しています。企画展・講座・見学会では、多くの市民の方に参加いただき、今では応募者の抽選を行う見学会や材料が不足するほどの講座もあります。今後も「豊田市に住んでいるけど知らなかった」「次回のものでづくり講座にも参加したい」といった声を聞けるように努力して、老若男女の市民に愛される発見館を目指していきたいと思えます。



利用案内

開館時間 9：00～17：00
休館日 毎週月曜日（祝祭日は開館）
入場料 無料（特別展開催中は有料）
交通 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩10分
名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩15分
愛知環状線「新豊田駅」より 徒歩15分
とよたおいでんバス「陣中町一丁目」より西へ徒歩5分
駐車場 約20台

■豊田市郷土資料館だより No.84■

平成25年6月25日発行
編集・発行 豊田市郷土資料館
〒471-0079 豊田市陣中町1-21
☎（0565）32-6561 FAX（0565）34-0095
E-mail：rekihaku@city.toyota.aichi.jp
URL：http://www.toyota-rekihaku.com
※豊田市郷土資料館だよりはHPでもご覧になれます。